

文学部新入生に期待するもの

文学部長 潮見 浩

文学部は、新入生諸君を歓迎する。ところで哲学科や史学科を志望した諸君には、文学部が詩歌や文学を研究する狭い意味のものではないことは、すぐに理解されよう。学芸・学問を意味する文学もしくは文を学ぶという考えは、洋の東西を問わず古来から連続とつづいている。中国では論語のなかにすでに文学という言葉があり、これは詩歌・小説・戯曲



文学部玄関前

などの狭義の文学（美文学）ではなく、文史・経の学問がふくまれる。西欧の古代ギリシア・ローマでも、ラテン語のリテラトゥラが文字や文書を意味するほかに、ひろく学識・学問をふくむ。ギリシア語では、ムジクが音楽だけでなく、文芸などの高い知的なまたは芸術的教養を意味するといわれる。大学の文学部はこの方にちかく、人間の精神に必要な調和をもたらし精神の浄化になるとみられた。ここで文学の言葉をせんさくするために、古代中国やギリシア・ローマの例をあげたのではない。現在は細分化された学問分野の追求が、大きな流れになっている。しかし、これからは、当初の統合的・総合的な観点にたしかえる必要があるということを云いたかったのである。文学部が諸君に期待する第一は、大学生活四か年のあいだに、一個の独立した人間となることである。両親や教師に依存した生活は、これを機会に訣別していただきたい。まだ諸君は経済的な面では一人立ちはできないにしても、精神的には独立した人間として責任ある行動をしていただきたい。

新入生のみなさん、御入学おめでとう。長く苦しかった受験から解放されてほっとしている反面、皆さんの胸は期待や不安でいっぱいだと思う。しかし、友達もすぐにたくさん出来るし、先輩もいろいろ教えてくれるので心配することはない。

さて、皆さんは大学生の間は何をやらうと思っているだろうか。サークル・バイト・旅行などいろいろあると思うが、大学生の今でしか出来ない事を思い切りやるといいと思う。「大学の間ほど暇とお金のある時はない」とよく言われるが、まさにその通りなのである。大学生活は、長いと思っても本当にあつという間に過ぎてしまう。私も今まで特に何もしないまま、何となく毎日過ごしてきたように思う。今までムダに過ごしてきた時間を少し後悔している。皆さんはそんな事のないように、大学生活を十分Enjoyして、充実した毎日を送ってほしい。

新入生のみなさんへ

文学部4学年

三好信子